

支部だより 2017.No.1

街

撮
の
建

ART × GEMBA

グ
ラ
ン
プ
リ

エントリー募集中 2017

北海道建築士会札幌支部

住所			
会社名	氏名	年齢	電話番号
作品タイトル	撮影地域		

記入事項 (必ず記入願います)

写真貼付欄

エントリー用紙

主催：(一社)北海道建築士会札幌支部 事業委員会

■応募資格 (1人2点まで)
北海道建築士会札幌支部の正会員・準会員・賛助会員(社員)であること。

■作品規格
・サイズA3 300万画素以上かつ15MB以下のJPEG形式
・写主体の個人又は法人の建物について、公表可能と確認の取れた作品に限ります。
※加工作品不可、未発表作品に限る。
提出した作品はお返しいたしません。
応募作品の版權は全て北海道建築士会札幌支部に属します。

■応募方法 (一次提出時)
○エントリー用紙、写真ソフト(プリントアウト不可)を専用webフォーム(300万画素以上かつ15MB以下のJPEG形式)※専用webフォームは後日公表予定です。
入賞者(エントリー用紙)の方は、後日(二次提出時)作品のメール提出をお願いします。
■応募先・お問い合わせ先
〒060-0042
札幌市中央区大通西5丁目1番地 大五ビル6階
(一社)北海道建築士会札幌支部「撮り建クラブ」係
TEL 011-232-1843 FAX 011-222-0924

■応募期間 平成29年5月1日～平成29年10月31日必着

■審査方法
北海道建築士会札幌支部事業委員会及び支部長により
厳正なる審査のうえ、ミニポート作品を選考いたします。

■入賞発表
平成30年1月中旬
入賞者に直接通知及び北海道建築士会札幌支部ホームページ・支部情報誌等に掲載予定です。

■表彰
平成30年1月下旬
北海道建築士会札幌支部総会総観会にて

■現場と風景が融合しているアーキテクチャ的な写真
■鉄筋組立、下地組などの幾何学的な写真
■建築現場で働く姿を対象に、いきいきとした職人さん
■笑顔あふれる職人さん、格好良い職人さんを捉えた写真作品を募集します。

撮り建クラブ 2017

2017年



札幌支部長 長谷川 敏 文

運営委員会及び実行委員会が新体制になり、早くも1年と第1四半期が経過しています。

先の1月25日、支部通常総会がホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。実務がお忙しい中、総会に出席していただいた会員の皆様、委任状を提出していただいた会員の皆様に対し、総会成立のための定足数に達することができましたこと、さらに総会議決事項の審議ができたこと、全ての理事を代表し心より感謝申し上げます。

総会では、2016年の事業報告と一般会計収支決算を承認していただきました。

また、2017年の事業計画では、高校生を対象とした「出張住教育講座」及び、幼児・小学生を対象とした「建築お仕事体験イベント」、一般の方を対象とした「さっぽろまち歩き tour」、最新のセミナー情報や建築技術情報を要望される方を対象とした「ダイレクトメール information」の事業計画を提案させていただきました。

また、新たな事業計画のひとつですが、北海道建築士会の正会員、及び準会員でなくても、あるいは、建築士の資格をお持ちでない方でも、札幌支部各実行委員会の事業に参加していただけるような仕組みを検討しています。

委員（または会員）の呼称は決まっていますが、一般の方はもちろんのこと、他の建築関係団体の方や他業界団体所属の方を、実行委員会の新たなメンバーの一員として向かえることにより、交流の場の拡大と共に、建築士会札幌支部にとっても、より幅の広い職域からの情報を得るきっかけになるものと思います。

札幌支部の実行委員会は【総務（女性小委員会、専攻建築士部会を含んでいます）】【まちづくり】【事業】【交流】【情報】【青年】の6委員会で構成されています。

計84名の実行委員は、札幌支部830名の会員と準会員、及び70社の賛助会員（企業等）の皆様にとって有益となる内容や、イベントの案内なども提供できるように、多くの情報を収集しながら様々なアイデアと発想を加えて事業を執行しています。

これらの事業は、多くの方が関わることにより選択肢が増え、事業内容の精査も多岐に渡る効果が期待できます。会員の皆様には、日頃より支部の運営に関しまして、多大なご理解とご協力を頂いているところですが、機会を捉えて、実行委員会の委員としてもご活躍していただけますようお願い申し上げます。



システムキッチンの最近

後藤 朋恵

システムキッチンという名称、最近あまり聞かなくなりましたと思いませんか？

一時は住宅のセールスポイントの上位で、広告に「システムキッチン装備」と謳っていた記憶があります。

では、最近の住宅でシステムキッチンはセールスポイントになっていないのでしょうか？

システムキッチン以前は1955年頃から、プレス工法で大量生産出来るようになったステンレス流し台が一般普及し、DK（ダイニングキッチン）にピカピカのキッチンが置かれるようになったようです。

システムキッチンは1985年から徐々に普及し1990年には一般的になってきました。シンク、コンロ、収納を兼ね備えたキャビネットを1枚の天板（ワークトップ）で一つにしたものをいいます。ワークトップに継目がないことで水仕舞いが良いのが特徴です。天板の材質もステンレス、人造大理石、木製、タイル、天然石と様々な材質、色を選べます。キャビネットの面材の材質や色を選択出来ますし、加熱機器部分をIH（電気）かガスを選択できます。食洗機をキャビネットに組み込むことも出来ます。レンジフード、水栓金具も標準仕様で装備されている上にオプションで選ぶことが出来ます。

2016年発行の住宅雑誌に「もう設備とはいわせない！キッチンが家具」という特集がありました。

私自身北米の輸入住宅に携わっていたので「キッチン＝家具」という概念がありましたので、ちょっと比較してみました。

北米ではキッチンにヌックと呼ばれる家族の食卓があり、フォーマルダイニングと呼ばれるプライベートとは分けたスペースがあるのが一般的でしたが、2000年頃からはリビング、ダイニング、

キッチンを一つの大空間にしたプランが多くなっていったようです。キッチン自体はキャビネットの面材（ドアスタイル）を樹種、色、デザインから選び、調理機器、レンジフード、シンク、食洗器、水栓金具を選択するという一見、日本のシステムキッチンと同じようですが、オーダーキッチンでデザインはクラシック調や、南プロヴァンス風ではレンジフードのカバーや、アクセサリーと呼ばれる使いやすい機能が多く、調度品のような美しさを目指しているようなデザインもあります。また、家具という概念ですので洗面台、書斎、シューズクローゼット等も同じキャビネットで統一したり、デザインを変えたりして造作します。

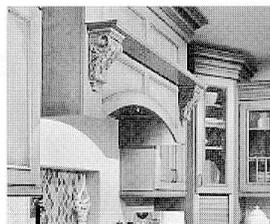
食文化の違いもあり、日本ほど鍋、食器が多くないのですが、キャビネット内に食器等も収納しています。ウォールキャビネットが手の届く位置についています。最近では日本でも見られますがパントリー（食品庫）機能があり食品の買い置きをストックするスペースがあります。

最近の住宅デザインはモダンスタイルが中心になり、それとともにキッチンのデザインもモダンスタイルが好まれているようです。

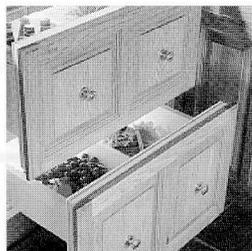
北米やヨーロッパのキッチンを見て、デザインや機能が素晴らしいと感じていましたが、最近の日本のキッチンも進化しています。



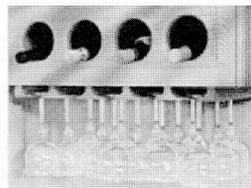
ヌック兼用のアイランドキッチン（Dewils 社製）



クラシックスタイルの
換気扇カバー



ビルトイン冷蔵庫



ワインとグラス収納 取手を引くとパントリー
(いずれも Dewils 社製)

デザイン的にはモダンが主流のようですが、機能的に実際に使用する立場に立った使い勝手の良さがプラスされています。人造大理石でシンクと天板を一体化して見た目を重視したデザインや、シンクの生ごみの処理がしやすい様、水の流れが自動的に目皿に流れるようになっていたり、レンジフードの掃除がしやすい様な工夫がされていたり、キャビネットは引き出し式が主流になっています。引き出し式になったことで奥のものが取り出しやすく、また、重い土鍋、ホットプレート等も収納できるようになりました。

各社、収納力の多さと使い勝手の良さ、掃除のしやすさをアピールしています。カタログを見ると「システムキッチン」はベースでありオープンキッチン、対面式、アイランド型と選択の幅が広がっており暮らしの個性に合わせてデザインと機能がチョイス出来るという事です。「コンビネー

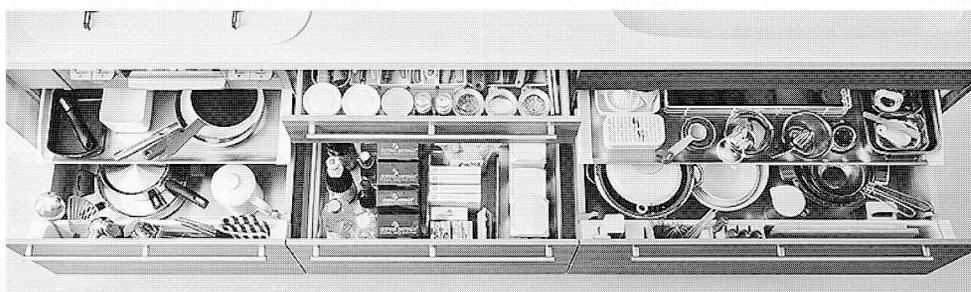
ションキッチン」とかキッチンスタイル（アイランド、ペニンシュラ等）をセールスポイントに挙げているようです。

また、キッチン=家具を超えて家の中心であるようなキッチンも日本から生まれています。

コンセプトは「魅せるキッチン」。

家を買うのはご主人だけど決めるのは奥様とも聞きます。決定権があるのが奥様ならキッチンが大きなセールスポイントになるのでしょうか。これだけシステムキッチンが進化していることから事実と思えます。

消費者が住宅により関心を持ち、デザイン、機能共に求められるレベルが高くなっていく事にきちんと答えられるようスキルアップしようと思います。



キャビネットが引出し式で大容量が収納できます (LIXIL)



家具のようなアイランドキッチンと
モダンスタイルキャビネット (TOTO)



魅せるキッチン (TOYO KITCHIN)

青年のページ

青年委員会 HP : <http://h-ab.com/sapporo/seinen/>

「スイス旅行顛末記～スイス建築巡礼の旅?～」

青年委員 川島 亮

昨年11月19日から9日間スイスを旅行してきました。私事ながら昨年、結婚したので新婚旅行です。妻の理解もあり、学生時代より興味があったスイス建築を観てきました。

◇スイスってどんな国? 北海道からスイスへは成田空港に移動しチューリッヒ行きの直行便で約12時間のフライトです。スイスはヨーロッパ中西部に位置し、ドイツなど5カ国に囲まれています。人口は約750万人、ドイツ語、フランス語、イタリア語が公用語でホテルや駅、観光施設では英語が通じます。日本からも観光客が多く訪れ、夏の登山シーズンには、ヨーロッパの巣鴨と言われるほど、スイスの山に多くの高齢登山者が訪れるそうです。主な産業ですが、かつては傭兵でした。スイスの山岳地形から農業などの産業が発達しなかったため戦力を主産業としていました。その名

残でローマのバチカン宮殿の護衛はスイス兵が担当しています。現在では金融業、観光業、精密機械工業などが主な産業です。また、近代建築の3大巨匠の一人、ル・コルビュジェの出身国で、10スイスフラン札の肖像にもなっています。

スイスは交通網がとても発達しており、列車やバス、トラムは時間通りに運行され、グーグルマップで行き先を調べればスイス国内なら、どんなところでも列車やバスの発着時間、路線、所要時間を検索することができます。おかげで一般的には知られていない建築家の住宅作品でも迷うことなく観に行くことができました。多くの建築を観てきたなかでいくつか建築作品を紹介したいと思います。

◇ヴァルスの温泉施設 自然が残る山間のヴァルス村にある温泉施設、設計は、ピーター・ズントーです。併設しているホテルにスイス初日は泊まり



▲主要都市に整備されているトラム網



▲ヴァルスの温泉施設

ました。建物は敷地斜面に嵌め込まれ、屋上は緑化され周囲の環境の中に溶け込む一方、地元産の片麻岩を積層させた壁面は重厚で上品な外観、静かな内部空間を演出しています。

内部での写真撮影が禁止されているため内部写真をお見せできないのが残念ですが、天井に配置されたスリット状のトップライトから漏れる光は幻想的できれいでした。

◇ルツェルン文化会議センター スイス中部の都市ルツェルンの駅脇にある湖に面して建つ会議場、コンサートホール、市立美術館などの複合施設、設計は、ジャン・ヌーベルです。外観は20m超の片持ち迫り出しの庇が特徴的。巨大庇のため写真を撮るのが難しかったです。巨大な庇というとシンボリックに感じるかもしれませんが、周辺環境にとっても馴染んでいて湖畔の佇まいは絶妙です。内部は金属の仕上げが多くヌーベルらしい艶っぽいデザインも良かったです。



▲ルツェルン文化会議センター

◇ヴィトラ本社 スイスのバーゼル近郊ドイツ側の国境近くにある「ヴィトラ社」の本社・家具工場。敷地内には多数の建築家の作品が点在しており、まるで「建築の博物館」です。

国立新競技場の設計で話題になったザハ・ハジドの建築の処女作であるファイヤーステーションや安藤忠雄の海外初作品もここにありま。世界の建築、家具の巨匠たちの作品が集合しているので建築やデザインを堪能できました。

◇ロイチェンバッハの学校 スイス最大の都市チューリッヒにある小中学校。設計はクリスチャン・ケレッツです。ガラスの箱を大きなトラスで囲んでお



▲ファイヤーステーション

り校舎の頂に天井高の高い体育館が配置されています。外観は学校らしく見えず、日本で建てるには建築計画的、構造的に難しいだろうと思いつつも、開放的で気持ちがいいだろなあと感じました。周囲の建物と距離があること、階高も一般的な建物と異なるので建物が開放的であっても内外部の視線が気にならなかったです。

◇スイス旅行を終えて スイスの建築はシンプルな形が多いですが、建物の大きさ、空間の配置、素材に至るまでよく考えられており、建築単体のみならず、既存の街並みに新しい建物が加えられても自然と調和していることに驚きました。また、スイスの人たちはとても気さくでよい人たちが多く、困ったときもこちらが声をかける前に声をかけてくれてとても助かりよい旅になりました。

今回の旅で経験したことを今後の仕事や建築士会での活動に活かしていきたいと思います。そして、新婚旅行なのに建築を観に行くことを認めてくれた妻に感謝します。

今後も士会の仲間と協力し楽しみながら活動していきたいと思いますのでよろしくお願いします。



▲ロイチェンバッハの学校

『建築士の日』当選

沖縄旅行紀

株式会社田中組 片岡哲二

昨年7月の建築士まつりの抽選で『沖縄2泊ペ
アで沖縄！』に当選しました(*^▽^*)あり
がとうございます！

沖縄は初めてだったので、この際家族で行って
しまおう！ということになり2人分の旅費を追加
して家族4人で行ってきました。

10月7日出発！千歳から直行便にて那覇まで4
時間です。

着陸間際になると上空から見ても南国らしさが
わかる島が見えてきてわくわくしました。

那覇市に到着。とても暑いです。10月なのに32
℃(´Д｀)

那覇市中心部のホテルでしたので沖縄唯一の鉄
道『ゆいれ〜る』で牧志まで行きました。

那覇は自分が思っていたよりもずっと都会でし

たが、モノレールから街並みを見た印象は新しい
建物と、古い建物が混在していて、やや雑然とし
た感じがしました。

初日は首里城に行ってきました。首里城公園は
広大な敷地で古い城壁が印象的で歴史を感じまし
た。

高台にあり那覇市内を見渡せる場所もあり期待
以上でした。

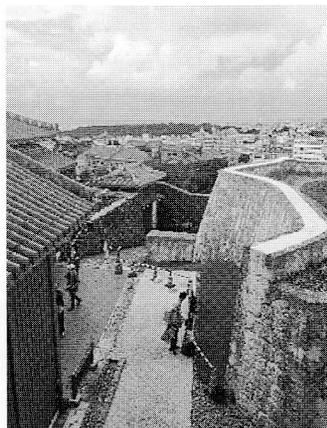
見学しているうちに夕方になり暗くなってしま
いましたが、ライトアップされた公園はとても良
い雰囲気でした。

夕食は創業60年というジャッキーステーキハウ
スに行きました。とても混んでいて列びましたが
おいしく頂いてきました。

2日目はレンタカーでうるまの海中道路、美ら



着陸間際の上空から



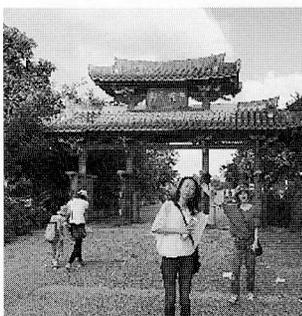
首里城公園から那覇市内を見渡す



首里城正殿



ライトアップされた首里城公園



首里城守礼門にて



ゆいれ〜る

海水族館、万座毛（まんざもう）を見てきました。

海中道路は両側が海でそれなりにきれいではあったものの当然ガイドブックで見るような上空からの壮大さは走っていてもわからず、ちょっと残念な感じでした。

美ら海は大勢の人で混雑していましたがとてもきれいだったし水槽の中をくじらが泳いでいるのは圧倒的な迫力がありました。行って良かったなと思います。

万座毛には夕方の到着になってしまい、慌ただしかったのですがなんとか見ることができました。遅かったにもかかわらずそここの人がいて景色を楽しんでいました。

2日目の夕食はやっぱり沖縄料理も食べないかね〜。と言うことで国際通りのお店に行ってきました。

ゴーヤチャンプルー、ラフテー、海ぶどうなど

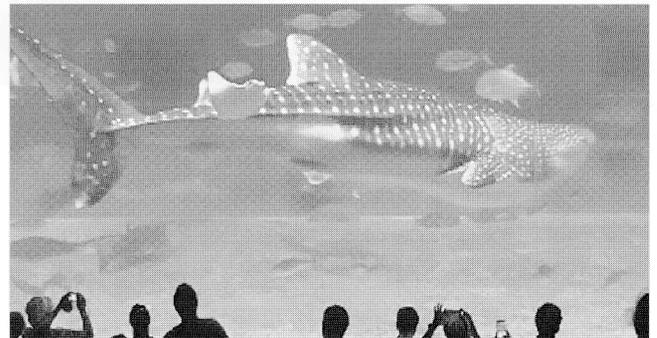
代表的なものを頂いてきました。おいしく頂きましたが、好みは分かれるところのようです。

最終日は国際通り付近を散策しました。暑くて歩くと汗がしたたる感じですがお店の中は効き過ぎなほどの冷房でそのギャップにはびっくりしました。

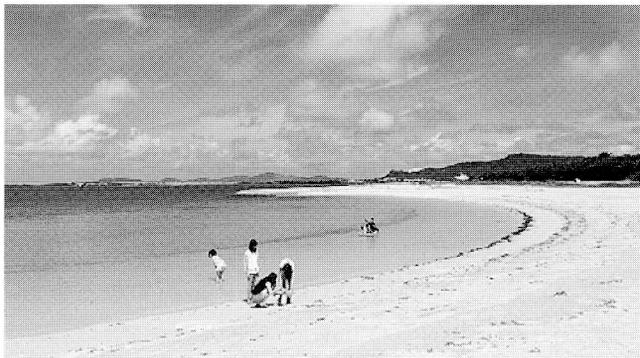
牧志公設市場では南国ならではのカラフルなお魚が並んでいました。異様にでかい貝とかも売っていて見るだけでも楽しかったです。

国際通りや公設市場は観光客でいっぱいでしたが、一歩中通りに入ると閑散として古めかしい場所が多く華やかな部分と暗い部分があり、沖縄の歴史に通じているように勝手に感じてしまいました。

天候にも恵まれ楽しい3日間を過ごさせて頂きました。本当にありがとうございました。今度は島でゆっくりもしてみたいなと思いました。



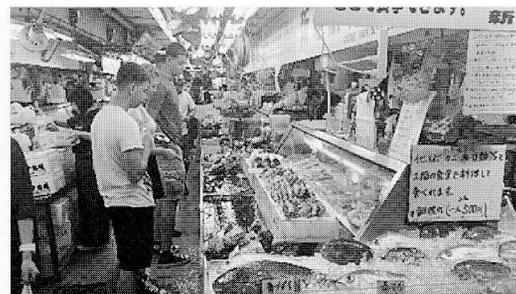
美ら海水族館



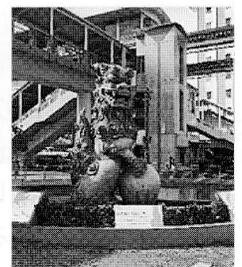
万座毛



牧志公設市場



牧志公設市場



ゆいれ〜る牧志駅のシーサー像

Aloha!

ホノルルマラソン体験記

池田浩司

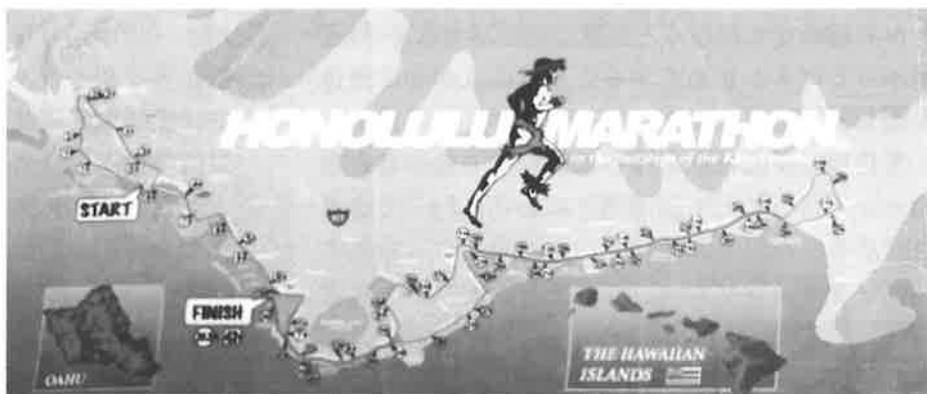
〈大会参加までの経緯〉

ようやく念願であったホノルルマラソンに参加することができた。私はそもそもマラソンをすることなど考えてもいなかった一人である。体に良いことは何一つしてはいなかった。数年前、建築士会の仲間とあるマラソン（ジョギング？）

大会に参加したことがきっかけでランニングを始めた。皆さん！非公式ですが建築士会にランニングクラブ（RC会）があるのはご存知でしょうか？

このクラブは毎年札幌ドームマラソンに参加し、大会終了後のおいしいビールを楽しむために走っている会である（このビール格別だ!!）。その他洞爺湖マラソン、札幌マラソン、北海道ロードレース等にも出るようになった。しかし国内のフルマラソンの大会の多くは制限時間や途中の門限があり、とても初心者では完走できない。そこで初心者に優しいホノルルマラソンへの参加となった訳だ。

そもそも練習などあまりしていなかった私はフルマラソンなど走ったこともなく精々ハーフまでの経験であった。私は何事も既成事実を先に作ってしまい自分を精神的に追い込んでしまうタイプ！そこで、昨年5月に期間限定のホノルルマラソン大会格安申込に建築士会RC会の仲間とともに申し込んだ。これより少しずつ練習することにした。ところが9月末に足底筋膜炎にかかってしまった。基本的には安静にしなければならぬと言われたが楽しみにしているホノルルマラソンは絶対外せない。しかし練習はほとんど出来ずリハビリに専念していた。



〈いよいよハワイへ!〉

建築士会の大先輩であるY・Mさんと弥次喜多珍道中的に新千歳空港を出発。飛行機内では眠れずワインを飲み放題的に飲んでしまいトイレに何回か通ってしまった。ホノルル空港に着くとそこはもう南国「ハワイ」！匂いや風景を見ると胸が高まってきた。ただ廻りの人の殆どが日本人、それもどうもホノルルマラソン参加者が大半のようだった。ひとまずホテルで落ち着いた。大会までは4日間あった。この間ホノルルの街をショッピングや食事楽しんだ。また、事前にゼッケンを受け取りにコンベンションセンターへ行く。そこでも大会参加者が大勢集まっており大会グッズのショッピング等色々な催しものが行われていた。その一角に中国のハリ治療コーナーがあったので足底筋膜炎の治療を試してみた。治療を受けた時、集団心理なのかどうか分からないが、一瞬効いたような気がしたが結局は治らずであった。マラソンの下見バスツアーも参加した。これは初心者にはお勧めである。下見して改めて42.195キロは長く感じられ、本当に完走できるのだろうか不安が募った！

〈ホノルルマラソン当日〉

これからはスタートまでの過ごし方と42.195kmの中の私なりのドラマを綴っていく。

「You can do it! (やればできる)」 これはよく聞く沿道の応援の声である。

(朝起きてからスタートまで)

世界で一番賑やかな朝がやってきた。ホノルルマラソンは早朝5時スタートなので、前夜は早く寝ることとしたがなかなか寝付けず、とうとう一睡もできず過ごしてしまった。たぶんY・Mさんも同じであっただろう！朝1時にはベッドから出て準備を始めた。私は足底筋膜炎対策の為にいつもより念入りに足のテーピングを行った。朝食は前日に買ってあったおにぎりバナナであった。2時半にはスタート地点まで行くバス乗り場へ、スタート地点の近くにあるアラモアナショッピングセンターの駐車場ではJTB主催の決起集会が行われる。そこではマラソンの準備体操や注意事項の説明が行われる。最後に事前にトイレへ行き、スタート地点へ移動した。そこは予想タイムに合わせて並ぶようになっていた。我々は自分の実力を無視し、前の方に並んだ。スタート直前にはおよそ3万人のランナーが集結していた。気持ちは高ぶるばかり、少し緊張していた。

(いよいよスタート)

ホノルルマラソンの醍醐味の一つに、スタートと同時に打ち上げる花火がある。花火は長い時間続き、お祭り気分！走るのを忘れて写真を撮る人が多い。当然参加者のスタートはかなり遅れる。ただ自己の正確なタイムを図るため、ゼッケンに組み込まれているセンサーがスタート地点のゲートを通過する時「ピッ」という音が鳴ってタイムを計り始める。



(スタートから10km)

スタートして4～5kmでダウンタウンを過ぎるとまだ暗い中ひとときわ明るく賑やかなクリスマスイルミネーションが迎えてくれる。立ち止まって写真を撮るランナーも多くいた。私もまだだいぶ余裕があるのでポケットの中のスマホを取りだし、写真を撮っていた。それからホノルルで一番賑やかなワイキキのカラカウア通りを通る。ここはまだ朝早いのに大勢の観光客が沿道で応援していた。

(10km～20km地点)

最終ゴール地点であるカピオラニ公園を右手に見ながら、このコースで唯一アップダウンのあるダイヤモンドヘッドの登りに差し掛かった。ここではトップランナーがもうすぐ帰り道になるので道路センターにロープが張られていた。このロープは地元のボランティアの人が応援をしながら持っていた。それはとても元気が良く大きな声で精いっぱい応援してくれていた。こちらもその元気をもらい頑張ることができる。ダイヤモンドヘッドを超えてカハラ地区に入る。ここにくると空が少し明るくなってきて日の出を見ることができた。そういえばバス下見ツアーのガイドさんがマラソンコースで優越感に浸れるところがあると言っていた場所に差し掛かった。そこはすり鉢状になった直線道を進み曲がり角で振り返って見る、そうするとまだ自分の後ろに大勢の人が走っているのが見える。しかしそのころには少し足に痛みが生じてきた。



(20km～30km地点)

そしてカラニアナオレハイウェイに入る。このハイウェイ直線がひたすら7kmも続く、体も心も



辛く痛くなってくる。痛みを我慢して走っていると剣道着姿で下駄を履いたランナーが私を抜いていった。「えっ下駄」そう言えば誰かが下駄を履いた「ゲッターマン」を見たら幸せになれると言っていたことを思い出し、追いか

けて行って写真を撮った。幸せになれるかなー??? とうとう足底筋膜炎の痛みが激痛に変わり25kmのエイドステーション（給水所）で立ち止ってしまった。少し休んで足をマッサージしてまた走り出した。だが次のエイドステーションでまた歩いてしまう。その後は歩いている方が多くなった。ハワイカイをぐるっと回るコースの沿道には住民から手作りクッキーや林檎等の差し入れ、そして温かな声援があった。

（30km～ゴールへ！）

帰りのハイウェイでは激痛のため殆ど歩いていた。どうにもならなくなり途中バス停のベンチに腰を据え日本から薬剤師からでなければ買えないロキソニンゲル剤を体の痛い足腰首等に塗った。それでも足の裏の激痛はどうにもならなく歩いていた。歩く速度は周りの歩いている中でも一番遅い！このままではと思い何回か走ってみては立ち止まりの連続であった。



沿道にはいくつか住民による応援ステージがあり楽しいリズムカルな音楽を聞かせてくれて苦しさを紛らわしてくれていた。カハラの海岸通りには高級住宅街が立ち並び、建築士としては見る価値



のある建物が沢山あったが、じっくり見る余裕は既になかった。帰りのダイヤモンドヘッドの長くて苦しい登り坂が迎えていたが、そこを登り終わるとランナーにしか味わえない景色が広がっていた。ここまで来ると残り2km程度の下り道である。元気が良ければ一気に駆け下りてゴールと行きたいのだが、最後に食いしばってランニングを挑戦するも下りの方が足の痛みを助長していた。とても悔しい！そしてとうとうゴールのカピオラニ公園の直線に入った。もうゴールはすぐそこだがなかなか見えてこない！ようやく見えた時最後に食いしばって走り夢のフィニッシュゲートをくぐった。ゴール直前一人ひとりゼッケンを確認されアナウンスで名前を呼ばれる。何とも言えない思いがした。苦しかった、楽しかった、悔しかった、感動したこれらのすべてが当てはまる。ゴール後、素敵な女性からフィニッシュメダルや貝殻のネックレスを首に掛けてもらった。また、フィニッシュシャツも受け取った。



（その日の夕方と翌日の間違った行動）

体はもうボロボロであった。その後予定では海

水浴で体をアイシングすることにしてはいたが痛みと疲れで直ぐにホテルへ帰って休むことにした。夕方は自分たちへのご褒美としてサンセットクルーズディナーを楽しみ満足感に慕っていた。

間違った行動とは、大会翌日に日の出を見るためダイヤモンドヘッドハイキングツアーを申し込んでいたことだった。朝起きると体がというより足が言うことを利かず、引きずって歩くようになっていた。しかしキャンセルはしたくない。ツアーバス乗り場に着くと案内人が何時もより参加者が少ないという。そうです、マラソンに出た方は翌日のツアーをあまり組まないというのだ。不安がよぎった。ダイヤモンドヘッドへ着くとまだ真っ暗であった。日の出を見ようとする観光客が大勢いた。山頂まで30分の山登り、しかも足元は岩だらけで歩きにくい。そんな中、足の痛みをこらえて登っていった。前日のマラソンに匹敵するくら

い辛いものであった。マラソンの次の日にこのツアーを申し込むものではないとつくづく反省！しかしツアーに含まれていたカフェ・カイラの朝食はとても美味しかった。

〈ホノルルマラソンを振り返って〉

ホノルルマラソンは世界一美しいコースと言われ、五感を刺激させられる大会だった。風、匂い、空気、自然、それとボランティアを含む沿道の人々の声援、そこには温かさと心地よい感じがあった。このことをハワイ語で「オハナ」というらしい。参加して本当に良かった。人生の良き思い出ができた。そうそう一緒に行っていたいただいたY・M様に感謝してもしつくせないくらい大変お世話になった。この場をお借りして有難うございましたとお礼を申し上げたい。また、来年行きましょう！皆様も一緒に如何ですか？



ダイヤモンドヘッドからの眺め



サンセットクルーズにて



カフェ・カイラでの朝食

応急危険度判定士が足りない！

北海道建築士会 被災地応急支援委員会 牛田 健一

皆さんご存知とは思いますが、応急危険度判定とは、余震等による被災建築物の倒壊、部材の落下等から生じる災害を防止し、住民の安全の確保を図るため、建築物の被害の状況を調査し、余震等による二次災害発生の危険度を判定・表示を行います。判定を行うのは、講習を受けた建築士の登録による応急危険度判定士となります。

現在、北海道建築士会では、道内において地震被害が発生した場合の連絡網を確立するため、「被災地応急支援ネットワーク」を作り登録をお願いしていますが、判定士の資格を持つ建築士会会員約1500名の内271名しか登録されていません。

札幌支部においては、札幌市と昨年二月に「災害時応急危険度判定活動連携協定」を締結し万が一の事態に備えています。しかし、札幌支部会員のネットワーク登録者は60名程しかおらず、札幌市内で地震被害が発生した場合に避難建物等の応急危険度判定を行う事を考えると判定士が足りません。

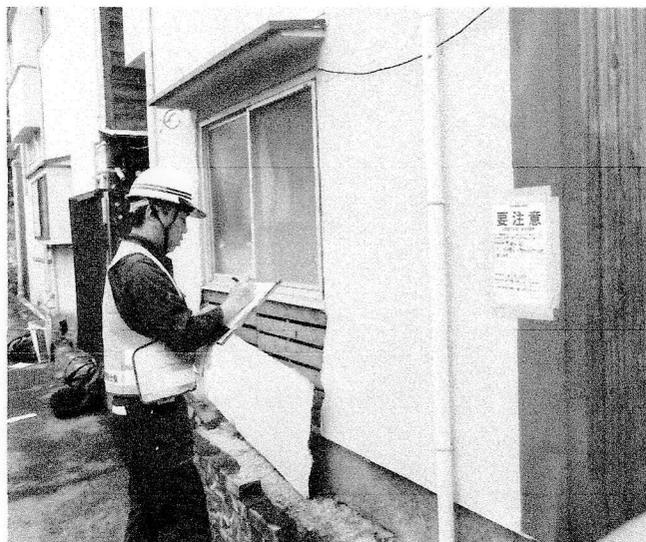
判定が必要となる札幌市内の建物を1000棟と仮定し、二人で20棟を見るとすると100名必要となり、自身の災害対応等で半数程度しか参加出来ないと考えたと札幌支部登録者全員では200名以上必要となります。

災害本部で判定士のお手伝いを行うコーディネーターも必要です。こちらは現地での活動が難しい方や女性の方にも参加して頂きたいと思います。

同封しました用紙でネットワークへの参加登録が出来ます。また、北海道建築士会のホームページ (www.h-ab.net) から登録できます。

建築士が参加出来る社会貢献「応急危険度判定」への参加をお願いします。

昨年の熊本地震では、北海道建築士会の「被災地応急支援ネットワーク」参加者の二名が現地へ赴き応急危険度判定を行ってきました。(写真参照)



技術レポート

クイックスプレー 複合工法の概要

株式会社ダイフレックス
札幌営業所 福岡 至 紘

1. はじめに

ウレタン塗膜防水が日本で使われ始めた1960年代から半世紀。施工面積はメンブレン防水の中でNo.1となり国内で最も使われている防水材料となりました。

これは、市場に改修の現場が増えたことが大きな要因で、ウレタン防水の新築改修比率を見てみると、新築：23%、改修：77%と多くが改修の現場で使われており、アスファルト防水（新築：79%）と比べるとその改修比率の多さがわかります。

そして、表-1の通り、それまで施工面積でシェアがトップだったアスファルト防水は、ウレタン防水がシェアを伸ばす中、大きくシェアを落としています。

そのような中で、(株)ダイフレックスは通気緩衝シートとウレタンを組み合わせたDD防水工法や圧縮空気を超速硬化ウレタンに混合させることで、アスファルト防水改修時に直接塗布できるGET工法など積極的に新たな工法の研究開発を

行い、さまざまな工法を上市してきました。今回は改修のみならず新築の著名な物件にも多く採用されている、超速硬化ウレタンと高伸長形手塗ウレタンを組み合わせた複合密着工法をご紹介します。

2. UPM工法の概要

超速硬化ウレタンは、機械化施工による吹き付けで塗布し、数分で指触乾燥、約3分で硬化するため、優れた施工性や硬化速度による工期短縮などのさまざまなメリットがあります。

今回ご紹介するUPM工法は、超速硬化ウレタンと高伸長形手塗ウレタンの複合密着工法ですが、超速硬化ウレタンの中でも高強度形のプラマックス500を使用し、露出での歩行や保護層を設けた場合でも、それに耐えうる性能を有します。(表-2)

工法の基本構造は、下地にプライマーを塗布(0.15kg/m²)した後、緩衝層として高伸長形手塗ウレタンを一層塗布(1.3kg/m²)、これにより下地の挙動やクラックに追従します。二層目には高

表-1 メンブレン防水施工面積 シェアグラフ

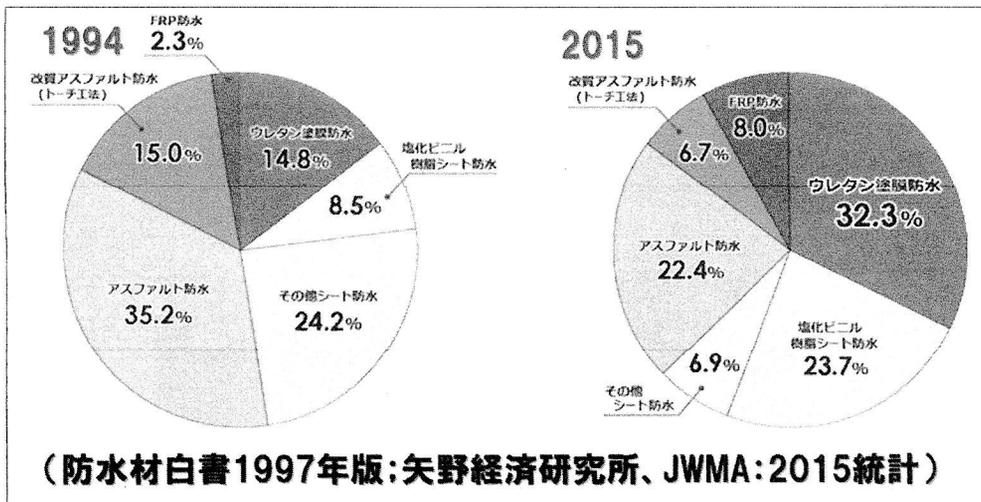
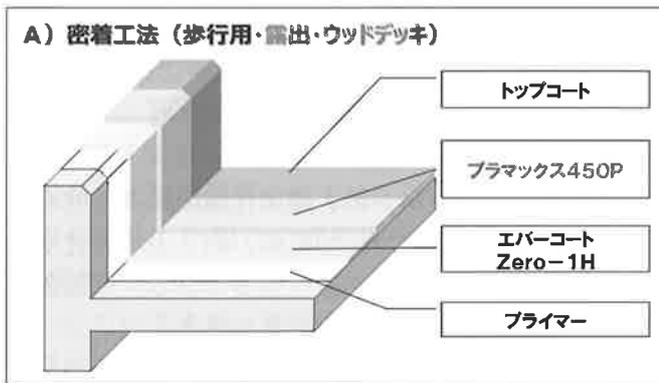


表-2 ウレタン防水材料物性比較表

項目	手塗ウレタン	超速硬化 ウレタン SP-100	高強度超速硬化 ウレタンプラマックス500
引張強さ [N/mm ²]	3.9	8.8	17.7
伸び [%]	600	600	300
引裂強さ [N/mm]	19	44	75
硬度 [タイプ]	A55	A75	D50

強度超速硬化ウレタン (2.0kg/m²) を吹付塗布し、トップコートで仕上げます。(図-1)

図-1



また他の防水工法と違い、立上りに対してアゴや金物を必要とせず、図-2のような形状でも強靱で継ぎ目がなく、かつ一体の防水層を形成できます。

また、本工法は露出用、保護仕様、保護外断熱仕様、緑化専用仕様と豊富な工法バリエーションをラインナップし、そのいずれの仕様を組み合わせても連続かつ一体の防水層を形成できる点も特徴と言えます。(図-3)

そのため、露出での歩行やウッドデッキを設置したり屋上に植栽を植える場合、または、屋上活用のために基礎架台が多い場合や特徴的なデザインの建物にする場合など、様々なケースで採用されています。(図-4)

3. 工法の特徴

当工法の最大の特徴は密着による複合法という点です。通常、ウレタンを屋上等の大面积で施工する場合は通気緩衝工法 (通気シートとウレタンの複合法) が使われますが、UPM工法では通気シートを使わず下地に直接密着させます。これにより防水端部の納まりや基礎架台などに対する施工性が向上し、従来の工法より自由度の高いデザインの形状に対しても施工が可能となりました。

図-2

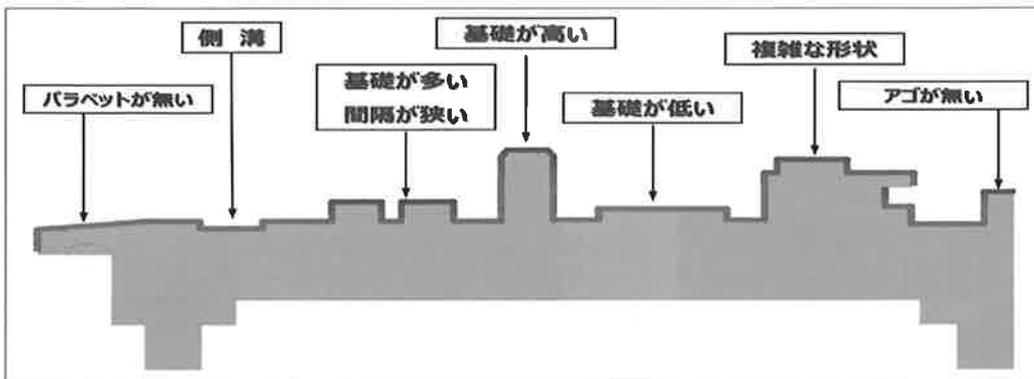
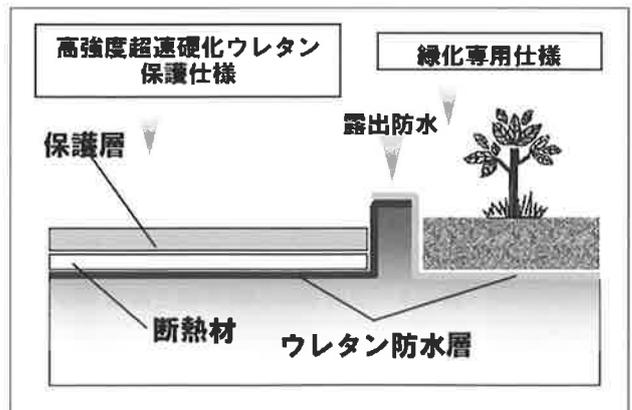


図-3



図一 4 参考事例



4. ウレタン防水セミナー

今回ご紹介したUPM工法は、2017年3月4日に開催した北海道建築士会札幌支部青年員会主催のウレタン防水セミナー内で実演を含めた内容で講演を行いました。総勢60名以上の方々にご参加いただき、大変ご好評をいただきました。

超速硬化ウレタンの実演では、実際にスプレーを使用しているところを見ていただき、ボールや発泡スチロールへ吹き付けたり、段ボールに水を入れ、その水の上に直接スプレーを吹き付けるデモンストレーションは大いに盛り上がりました。また、その硬化速度や樹脂強度に驚かされている参加者も多く、有意義なセミナーになったと考えております。(図一5～7)

5. おわりに

今回ご紹介したものは新築で多く採用されている工法ですが、改修工事に強みを持つウレタン防水は、建築市場が新築から改修にシフトしていくと共にそれに合わせて大きくシェアを伸ばしてきました。ウレタン防水は複雑なデザインに対する施工性などのメリットはもちろんですが、一度ウレタン防水を施工した現場は、メンテナンスが非常にしやすくなります。それは部分的な補修もそうですが、再改修時の設計・施工・コストの面で他の工法に比べて大きなアドバンテージを有しています。建物の長寿命化を考えた際に、インシャルコストだけではなく、補修や改修を含めたランニングコストも検討していただければと考えております。



図一 5 基礎架台に見立てたものに施工



図一 6 水の入った段ボールに吹き付けたもの



図一 7 座学 (出席者60名以上)

老後のために道楽に精を出す

東 道 尾

子供のころから自分で体を動かしたり、表現することが苦手です。そのかわり、その道を究めているアスリートやアーティストを観るのが大好きです。歌舞伎、文楽、オペラ、コンサート、野球観戦と、遊ぶことには事欠きません。お金はそのためにあるものと思っています。

歌舞伎に興味を持ったのは、父親がよく話をしていたからか…。両親はすでに他界しているが、新婚生活は東京の浅草から始まり、先輩に歌舞伎座に連れて行ってもらったことがあるらしいが、当時は何もわからずもったいないことをしたと話していました。

この原稿を依頼されて、初めて歌舞伎を観たの

がいつだったのか…？と古い手帳を引っ張り出してみました。今から35年前に明治座で「伊達の十役」を観劇。これは、市川猿之助（現猿翁）がスーパー歌舞伎を作る前に、若い人にも歌舞伎を楽しんでもらおうと工夫をこらし、ひとりで10役を早変わりして演じた、当時注目の芝居でした。札幌からの移動費用とチケット代金は結構な負担で、そうたびたび実現できませんが、数年ごとに東京に出向く機会を作り、歌舞伎公演を楽しんでいます。

3年前には、夢だった「こんぴら歌舞伎を観劇できました。古い芝居小屋では、役者が近くて、これはまた格別な体験でした。

歌舞伎座には「幕見席」というのがあり、1幕



こんぴら歌舞伎



歌舞伎座



歌舞伎座



歌舞伎座

だけ安い料金を観られます。当日売りのみで、早くから並んでチケットを確保します。改築前の古い劇場にはエレベーターなどなく、最上階まで急な階段を上がっていました。天井桟敷は椅子席がなくなると立ち見になります。役者は豆粒ほどに小さく、オペラグラスは必須です。劇場全体が見渡せ雰囲気は堪能できますが、花道はほとんど見えません。それでも直に見られる臨場感は映像とは比べ物になりません。時間が合えば、お目当ての演目だけ気軽に楽しめます。最近ではシネコンで「シネマ歌舞伎」を上映しており、当代の人気役者の演目を地元で観ることができます。当初は数えるほどの観客でしたが、最近ではファンも増えて結構な人気となっています。私も好きな演目や、もう劇場では見られない役者を何度も観に行っています。役者の表情をアップで観られるのが映像の良さ！ときどき、高齢の方の大向う（客席の後ろのほうから芝居のいい場面で役者の屋号を大声で叫ぶ）が飛び、いい心持ちになります。北海道にも、粋な人がいらっしやいます。

また、札幌から歌舞伎鑑賞のツアーもあり、結構な人気でリピーターもいるようです。

そういう私も、今回2度目の歌舞伎鑑賞ツアーに参加しました。1月の新春歌舞伎と襲名披露公演などで、お目当ての役者がたくさん出演しており、久しぶりに目の保養をしてきました。今回の

目的のひとつが、着物で観劇すること。全行程を着物で…と考えましたが、自宅にいるときでさえ連日着物で過ごしたことがないので断念。ただし、下着からコート、履物まで洋服と兼用できず、結構な荷物になるので、一式ホテルに送り届けることにしました。二日目の新橋演舞場で目標達成！（本当は歌舞伎座で着たかった…！）

着物を着ると背筋がのび、立ち居振る舞いもそれ相応になり普段の自分とは大いに違ってきます。そして、どこに行っても、よい待遇を受けるといってお得感が、結構心地がいいです。もちろん着物で歌舞伎見物は格別でした。

二つ目の目的は、千疋屋でフルーツパフェを食べること。何度も東京に出かけているが、なかなか時間がとれず、同行の友人に付き合ってもらいました。特別の「あまおう」がたくさん載ったいちごのパフェを堪能！友達のフルーツサンドまで食べつくして大満足！

歌舞伎に限らず、映像よりライブがいいです。まだまだ、行きたいところに行き、観たいものを観られる元気な体でいたいものです。

好きなものが、自分の情報のアンテナに引っかかってくるのが楽しいのです。それが出来なくなったら、家で映像を楽しみ、買い集めた図録、筋書き（プログラム）を眺めるのも楽しいかなあ〜。でも見えるかなあ〜。



千疋屋にて



歌舞伎筋書

≡新入会員紹介≡

石澤 達志	
一戸 公陽	(株)オオサワ建設
岩澤 義晴	
沖野 和行	武ダ技建創(株)
奥山 史也	岩倉建設(株)
小野 正利	不動産賃貸・管理
北村 志人	(株)一寸房
児玉 恵美	アトリエアム(株)
齋藤 繁幸	
真田 忠昭	武ダ技建創(株)
志村 大	武ダ技建創(株)
関 靖之	札建工業(株)
武田 知子	武ダ技建創(株)
土田 秀樹	アイグステック(株)札幌支店
中橋 啓	萩原建設工業(株)札幌支店
中村 孝幸	(株)札幌工業検査
中谷 健二	(株)浅沼組
古沢 香奈	パシフィックコンサル タツツ(株)北海道支社
松島 志信	北海道庁
松原 崇	(株)ルート企画設計
宮井 隆行	日本都市設計(株)
村松 叶啓	村松都市開発(株)
森 勝則	合同会社 ハウスU
山崎 勝明	(株)HAL
山森 夏子	y木造住宅設計事務所(株)
吉田 素子	武ダ技建創(株)

≡編集後記≡

各地で花の便りが聞こえてくる季節とはなりましたが、札幌近郊の公園・グラウンドでは雪解けが例年より遅く、毎週末スコップを持って子供たちの為に雪割をしています。

この「街」を会員の皆様が手にする頃には、日差しも温かく、GW連休の間近で桜満開になろうかという良い季節になっていることでしょう。

さて、今回の表紙は、札幌支部事業委員会が主催する「撮り建グランプリ2017」のエントリー募集です。現場と風景、施工中の幾何学的な写真、働く方の生き生きとした姿を捉えた写真作品を募集していますので、どしどしエントリー下さい。

新年度の札幌支部長挨拶では、会員の皆様への日頃の事業協力感謝と共に、更に多くの方に事業へ参加頂くことで益々有益な事業の執行、情報提供が出来ますように、会員皆様への更なる協力・参加をお願いしています。

また、“システムキッチンの最近”と題して、設備から家具、そして機能的に進化した「魅せるキッチン」への移り変わりの紹介を始め、被災地応急支援委員会からは登録者不足による危機！社会貢献「応急危険度判定」への参加協力のお願いを掲載させて頂きました。

そして、スイス旅行記、沖縄旅行記、またホノルルマラソン体験記等々、面白くて、読み応えのある記事が満載です。是非、GWの休日にでも、ゆっくりと休養を取りながら一読頂きますようお願いいたします。

最後に、記事を提供して頂いた方のご協力、関係者のご尽力により、今回も無事に本誌を発行することができました。ありがとうございました。

(情報委員 馬場 将考)

支部だより「街」

2017.No.1

平成29年5月発行

発行—一般社団法人北海道建築士会札幌支部

〒060-0042 札幌市中央区

大通西5丁目11番地 大五ビル6F

T E L (011) 232-1843

F A X (011) 222-0924

情報委員会

委員長／森田ゆう子

副委員長／宮川 耕介 柳山美保子

川原 昌彦

委員／内海 純一 安達あけみ

後藤 朋恵 首藤 一弘

星野 里恵 岩浪 次郎

馬場 将考 片岡 哲二

今村 敏彦 多田 幸

印刷—中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来

3条1丁目1-34

T E L (011) 781-7501

F A X (011) 781-7516